

【会議記録】

第6回一宮市部活動地域移行検討協議会

日 時	令和6年3月27日（水）14時30分～16時
場 所	一宮市役所本庁舎14階 1402会議室
出席者	委員11名（鈴木、春日井、土川、長谷川、小島、町田、芳賀、江藤、伊藤実、藤原、森）

1 開会のことば

2 一宮市教育委員会あいさつ（教育長）

3 報告事項

（1）令和5年度いちのみやモデル事業 生徒の事後アンケート結果について

- 事務局から以下のように報告があった。
 - ・3月13日までの生徒アンケートでは、どの種目も97%以上の生徒が「次回も参加したい」と回答しており、指導者による指導の満足度も高い。生徒の会場までの移動は保護者送迎が多いが、サッカーのように会場が分散されている場合は、自転車で移動する生徒が51%と多い。
- アンケート等で検証する際に、うまくいっていないことを否定的に捉えるのではなく、現状を知る突破口にもなり得る。そのような視点で来年度につなげて欲しい。

（2）小委員会の開催について

- 事務局から以下のように報告があった。
 - ・「教職員が行う部活動を、休日は地域クラブチームとして活動することは可能か」というテーマで小委員会を開催した。委員からは、「指導したい教職員は一人でも活動はできるのか」、「練習できるチームがどんどん練習して過熱化していくのではないかな」等の意見が出た。
- 平日の部活動の延長線上に休日の部活動があるのではなく、平日と休日は切り離して、大会を目標にして取り組むという発想自体もゼロベースから考えなければいけない。

4 協議

（1）令和6年度いちのみやモデル事業について

- 事務局から以下のように提案があった。
 - ・来年度は、実施種目を増やして民間団体の参入を増やすこと、年間を通して事業を行うこと、希望する教職員が指導する形を確立するために教職員モデル事業を行うことをめざしている。協会やクラブチーム等の協力を得て、新たに軟式野球、ソフトボール、ハンドボール、バスケットボール、美術、ダンス等のモデル事業の開催を予定している。
- 子どもたちだけでなく、指導者もよく分からないから様子をうかがっている状態である。まずはやってみて、やりながら問題点を洗い出していくしかないと思う。
- 子どもたちに生涯スポーツの意識を育てていくのであれば、教職員の意識を変えなければいけない。子どもたちが土日の活動をどう楽しめるかということを焦点に考えていかないといけない。
- 今後、受け皿を増やしていく際に、やり方に制限をかけたり、同じ枠に入れようとしたりすると無理が生じる。既存の団体が活動する場所に子どもたちが参加する形でもよいのではないかなと思う。
- 吹奏楽の活動のように、高校生と一緒に練習を行い、年齢が近いからこそ素直に質問しやすく、悩みが共有できることも多い。異年齢の人と関わる場の提供も魅力的なものになるかもしれない。
- 令和8年度からの部活動の移行をめざして、子どもたちの実態を掴んだり、モデル事業でアンケートを募ったりして、子どもたちが困らないように移行をスムーズにしていくという大きな流れを教職員だけでなく、地域の方や保護者の方、一宮市全体で共有していくことが大切である。

（2）その他について

- 「人材バンク」「連絡ツール」について、事務局から以下のように提案があった。
 - ・来年度から愛知県内の全市町村が活用できる人材バンクの導入を予定している。また、生徒や保護者、団体が安心・安全で効率的な連絡、予定管理を実現するために、統一の連絡ツールを試験的に導入していきたい。
- 一宮市独自の人材バンクを新たに作ることは費用がかかるので、あるものを上手に使い、その分の時間と費用を使うべきところに使うという考えでよいと思う。

5 一宮市教育委員会あいさつ

6 閉会のことば